

# 知床半島先端部での シノリガモ *Histrionicus histrionicus* の繁殖

宇仁義和

093-0006 網走市南6条東5丁目6番地, ユニス: 宇仁自然歴史研究所

## A breeding Record of Harlequin Duck *Histrionicus histrionicus* in Shiretoko Peninsula, Hokkaido.

UNI Yoshikazu

UNIS: Uni's office of Nature-human Interaction Studies, Minami 6 -Higashi5, Abashiri, Hokkaido 093-0006, Japan.  
[unisan@m5.dion.ne.jp](mailto:unisan@m5.dion.ne.jp)

Three flocks of focus juvenile of Harlequin Duck *Histrionicus histrionicus* were sighted in Shiretoko peninsula, Hokkaido, 44° 18' N, 145° 17' E, 6 th September 2003. They were pre-flying stage juveniles that means they were born in the forefront of Shiretoko peninsula.

### はじめに

シノリガモ *Histrionicus histrionicus* は潜水性の海ガモで、太平洋側ではバイカル湖からサハリン、カムチャツカ半島、アリューシャン列島、アラスカを経てコロラドまで、大西洋側ではカナダ東部、グリーンランド、アイスランドに分布し、繁殖環境は山地溪流である (Jutglar 1992)。日本での繁殖確認は1976年に青森県西津軽郡の赤石川が初めてで、その後宮城県、青森県などでも発見された (佐藤・小湊 1988)。北海道では、1995年に北海道登別市で繁殖が確認された (伴野ら 2003)。道内の夏季の観察は、天売島 (清棲1965) や知床半島 (黒田 1965; 中川 1981・1982) でも報告されており、繁殖が示唆されていた。カムチャツカ (ロブコフ 1988) やサハリン (ネチャエフ 1995) でも繁殖が確認されている。

本論では、2003年9月に知床岬先端部でシノリガモの飛翔前ヒナを観察したことを、同種の繁殖確認として報告し、確認方法について若干の考察を試みる。

### 観察内容

シノリガモの飛翔前ヒナの観察は、2003年9月6日午前7~8時にシーカヤックから行なった。観察場所は、知床半島西側アウンモイ付近の通称・落合湾と海賊湾、そしてオキッチウシ川河口

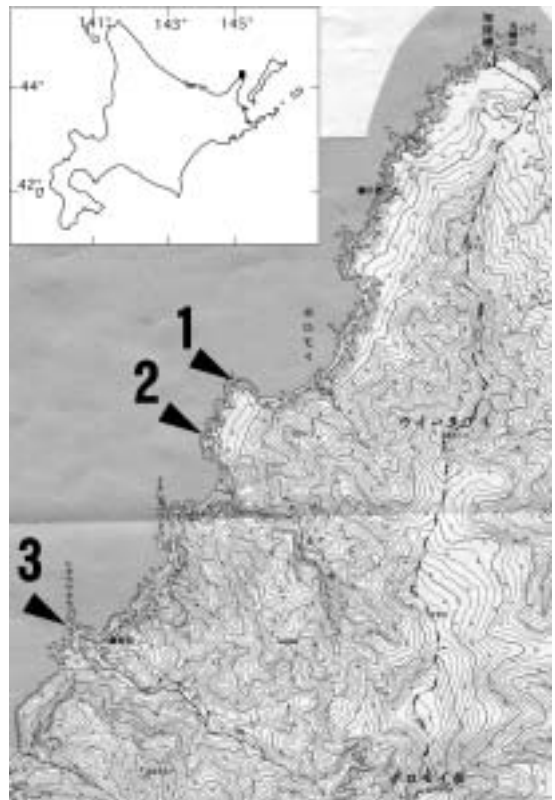


図1. シノリガモの飛翔前ヒナの観察場所 (2003年9月6日). 1: 通称・落合湾, 2: 通称・海賊湾, 3: オキッチウシ川河口. **Fig.1.** Location of sighting of focus juveniles of Harlequin duck *Histrionicus histrionicus*. 1: Ochiai-wan, 2: Kaizoku-wan, 3: Okichiu-shi river mouth.

の3箇所、おおよそ北緯44° 18′ 東経145° 17′ である(図1)。観察内容は、落合湾では飛翔前のヒナだけからなる8羽以上の群れと別に成鳥の群れが1つ、海賊湾では飛翔前のヒナ3羽と別に成鳥の群れが1つ、オキッチウシ川河口では前後にオスエクリプスが1羽づつ加わった飛翔前のヒナ10羽前後の群れと別の成鳥の群れそれぞれ1つが観察された。なお、海賊湾の観察は筆者ではなく同行者による。

飛翔前のヒナは波が行き来する磯場で波打ち際を滑るように走って移動しており、大きさは体長で成鳥の半分程度であった。筆者が観察した2例はともに、シーカヤックに気付いた親鳥が高度1~2m程度の低空を飛翔して逃げ出すのを観察し、その後飛べないヒナが逃げまどう姿を確認したものであり、ヒナが飛翔するところは見なかった。ヒナの羽毛はつやのない茶褐色で側頭部の2つの白斑が目立つ綿羽であった。

#### 観察地の環境

観察地の環境は、知床岬層と呼ばれる第三紀層の火山砕屑岩(合地ら1989)であり、れき岩が海水面近くにテラス状に広がる磯場である。観察地はいずれも小河川の河口部近くである。シノリガモの営巣環境は山地溪流とされるので、観察された群れは、付近に流入する小河川の溪流部で繁殖し、ヒナがある程度成長した時点で海岸部に降りてきたものと考えられる。知床半島先端部の小河川は河口部まで山地溪流地形が続くことから、観察されたヒナたちの移動距離は最短で数百メートルである。

#### 考察

これまで知床半島沿岸では夏季にシノリガモの観察記録があり、繁殖が示唆されていたが(中川1988)、その確認に至らなかったのは観察方法の制限によるものと考えられる。従来の観察はチャーターした観察船あるいは船外機船からの観察であった。この方法ではシノリガモを発見しても至近距離からの観察ができず、水面を移動するヒナの見落とすことになった。それに対し、今回の観察にはシーカヤックを使用しており、従来の観察方法では困難であった岩礁がテラス状にひろがる岸への接近や着岸が可能で、ヒナの観察につなが

ったと考えられる。今後はシーカヤックによる観察によってさらなる発見が得られる可能性がある。また、観察地と同一の地質と地形は知床半島先端部に普通であり、斜里側の他の場所や羅臼側での繁殖も期待される。

#### 謝辞

今回の観察の機会を与えてくださった山中正実知床自然センター事務局長およびカヤックガイドの佐々木泰幹氏、文献を教えていただいた中川元知床博物館館長にお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図 Vol. 2. 講談社, 東京.
- 黒田長久. 1965. 北海道の鳥類調査. 山階鳥類研究所調査報告4: 224-268.
- 合地信生・後藤芳彦・柴田知之・船山淳. 1989. 知床半島の生い立ち 郷土学習シリーズ第11集. 52pp. 斜里町立知床博物館協力会, 斜里.
- 佐藤広巳・小湊郁夫. 1988. 栗駒山麓一迫川におけるシノリガモの繁殖とその生態. *Strix* 7: 159-176.
- 中川元. 1981. 知床半島の鳥類調査報告. 大泰司紀之(編), 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物編). pp43-79. 北海道, 札幌.
- 中川元. 1982. 知床半島先端部の鳥類. 知床博物館研究報告4: 49-54.
- 中川元. 1988. 鳥類. 大泰司紀之・中川元(編), 知床の動物. pp59-121. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 伴野俊夫・伴野美江・星川光子. 2003. 胆振幌別川におけるシノリガモの繁殖例について. 北海道野鳥だより133: 4-7.
- ロブコフ E. G. (藤巻裕蔵訳1988). 1986. 極東の鳥類2 カムチャツカで繁殖する鳥類 1.85pp. 極東鳥類研究会, 帯広.
- ネチャエフ V. A. (藤巻裕蔵訳1995). 1991. 極東の鳥類12 サハリンの鳥類1.175pp. 極東鳥類研究会, 帯広.
- Jutglar A. 1992. ANATIDAE X. In: Hoyo J., Elliot A. & Sargatal J. (eds.), *The handbook of the birds of the world*, Vol. 1. pp620-623. Lynx Edicions, Barcelona.